

# みなみ

R8 竜王南小学校便り

No. 1

2026.5.20 発行

甲斐市立竜王南小学校

学校教育目標

「楽しい学校（楽校）の創造」

－ やる気 こん気 げん気 －



## 楽しいを感じられる学校づくりをめざして

新年度になり、子どもたちとの出逢いから2か月が過ぎようとしています。子どもたちの朝のあいさつ「おはようございます」から、私は、「今日も一日、頑張るぞ」と、“やる気”をもらいます。午後は、校長室にいと、「さようなら」と、時折、あいさつをしてくれます。校長室の前を通り過ぎる一瞬ですが、「さようなら」のあいさつから、1日の疲れが吹き飛ばすような“元気”をもらいます。そして、そのあいさつに笑顔で返すと、もう一度子どもの笑顔が返ってきます。子どもたちに会うたびに、幸せな気持ちになります。「あいさつは心をつなぐまほうの言葉」という標語を聞いたことがありますが、その意味を毎日実感しているところです。

過日、ある男の子が「算数が好きだから楽しい。」と、にこにこしながら私に伝えてくれました。とてもうれしい気持ちになりました。305名全員が、「学校が楽しい」と言って登校できる学校でありたいと思っています。

この間、保護者の皆様には、授業参観、PTA総会等、本校の教育活動にご協力いただき、感謝申し上げます。今後ご理解とご協力をお願いします。

レベルアップ！みなみっ子～みんなでつなごう、新たな一歩～

5月12日、令和8年度の第1回児童総会が開かれました。本部の提案に対して、各クラスから多くの意見が発表され、各クラスでよく話し合い、児童会の活動に積極的に関わっていかうとする意欲が伝わってきました。児童会本部役員は、事前の準備、提案、議事進行など、大忙しでしたが、一人ひとりが自分の役割をよく理解し、児童会活動を盛り上げようとする姿に感心しました。



活発な討議がなされた  
児童総会でした。

児童会スローガンは、「レベルアップ！みなみっ子～みんな  
でつなごう、新たな一歩～」です。仲間と「手」「心」「思  
い」をつなぎ、全校が勉強でも、あいさつでも、学校生活  
全てのことでレベルアップし、「51周年」という新たな一  
歩を踏み出し、竜王南小学校の歴史をつないでいきたいと  
いう理由から、この児童会スローガンに決まりました。



## 南小 当たり前十か条

本校では、「南小 当たり前十か条」が制定されており、確実にその定着が図られています。これら一つ一つが学校教育目標にある「やる気」「こん気」「げん気」に関連づけられています。当たり前前に自然にできるようになることを受け身でなく児童が自ら目指そうとする姿こそが、何事にも前向きによりよく生きることにつながると考えています。第4条を拝見し、ふと、過日、目にした本の中で、「幸せになるために大切なことは2つある。それは『笑顔』でいること、『ありがとう』をたくさん言うこと、言われること」と書いてあったことを思い出しました。また、「ありがとう」に関するこんな内容を目にしました。

## 南小 当たり前十か条

- 第1条 自分からあいさつする。
- 第2条 時間を守り、けじめをつける。
- 第3条 人の話を聴く。
- 第4条 「ありがとう」「ごめんなさい」をはっきり言う。
- 第5条 友達や周りのことを考えて行動する。
- 第6条 持ち物をそろえて学習をする。
- 第7条 めあてに向けて取り組む。
- 第8条 無駄口をしないで、そうじをする。
- 第9条 ろうかは静かに歩く。
- 第10条 使ったものは元にもどし、整理整頓をする。

平成24年12月18日策定・制定  
令和4年3月7日改正

### あなたは「ありがとう」の反対語を知っていますか！？

ありがとうの反対語など今まで考えたこともなかった。

教えてもらった答えは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・「あたりまえ」

「ありがとう」は漢字で書くと「有難う」「有難（ありがた）し」という意味だ。

あることがむずかしい、まれである。めったにない事にめぐりあう。すなわち、奇跡ということだ。

奇跡の反対は、「当然」とか「当たり前」。

我々は、毎日起こる出来事を、当たり前だと思って過ごしている。

歩けるのが、あたりまえ。目が見え、耳が聞こえるのが、あたりまえ。

手足が動くのが、あたりまえ。毎朝目覚めるのが、あたりまえ。

食事ができるのが、あたりまえ。息ができるのが、あたりまえ。

友達といつも会えるのが、あたりまえ。太陽が毎朝昇るのが、あたりまえ。

うまれてきたのが、あたりまえ。家族が毎日帰ってくるのが、あたりまえ。

そして…

生きているのが、あたりまえ。

また、ある夫婦の話もしてくれた。

晩酌の時、いつも無口の夫が、「ちょっと、お酌してくれないか？」と珍しく妻に言った。

台所の片付けをしていた妻は、「今、忙しいから自分でやって」と答えた。

夫は少し寂しそうだったが、手酌で酒をついだ。

その、2～3時間後、夫は急に倒れ、救急車で病院に運ばれ、帰らぬ人となってしまった。

それから妻は、何故、あの時、夫にお酌をしてあげなかったのかと、ずっと悔やんだという。

あの時、何故、もっと、優しい言葉で、こぼれるような笑顔で、感謝の言葉で、

接することができなかったのか…

誰しも、今日と同じ日が明日も繰り返されると思う。

今日、誰かと出逢い、話し、笑い、食事をして、仕事ができる。

こんな当たり前だと思うことが、本当は奇跡の連続なのだ。

「有ること難し」

生きて、出逢う、という奇跡の連続に、「ありがとう」を言わずにいられない。